



障害のある人の、障害のない人と同じような地域での暮らし（自立生活）の実現

キーワード

障害者の自立生活、知的障害者の結婚・子育て

研究内容

「障害の社会モデル」の考え方にに基づき、身体・知的・精神などの機能障害のある人が障害のない人と同じような生活・人生を生きることができないのは、社会・環境との相互作用によるものであるととらえ、それらの除去や合理的配慮の提供により、障害の有無にかかわらず、だれもが自分らしい生活・人生を送ることができるようにすることが求められている。障害の問題は、それが社会問題であるがゆえに、だれもが問題解決の当事者となる。そのことを伝え、また問題解決のために当事者を中心に据えて関係者が協同することの重要性を研究を通して伝えることが私の役割である。



『出会うの障害学 - 多様な生を旅する Discover Another World』土屋パブリッシング, 2021

関係論文、特許・著作物等の知財情報、連携の実績

- ・第13章自立生活「障害者の権利条約の実施—批准後の日本の課題」信山社出版, p.295-311, 2018
- ・知的障害のある夫婦の生活と支援：「共に知的障害のある夫婦に対する結婚及び子育てに関する調査」から、社会理論研究, 21, 千書房, p.10-24, 2021



『わたしたち こんなふうに暮らしているよ♪』千書房（公益財団法人ひと・健康・未来財団助成事業）ISBN 978-4-7873-0060-7

社会連携・産学連携の可能性

障害当事者の目線でみたニーズに応えるような企業・ことがらとの連携